

小山町

地形概況

鮎沢川の谷底低地の東側は足柄山地、箱根外輪山の西北斜面と丘陵がのびる。西側の緩斜面の丘陵地や台地は厚い火山灰でおおわれる。北方には三国山地が東西にのび扇状地を山麓にもつ。西方は富士火山体と裾野が広く占め火山噴出物でおおわれる。

地質概況

東部は箱根火山の古期外輪山溶岩、金時山溶岩が斜面を構成する。北部の三国山地は御坂層群の凝灰岩・泥岩・礫岩層からなる。西部は玄武岩質溶岩のおおう富士山本体で中腹から裾野には火山灰層が厚く、鮎沢川ぞいに古富士噴出物もある。

気象概況

標高が高いため推定年平均気温も 12.0℃と低い。8月の月平均最高気温と1月の最低気温との年較差は23℃程度と小さい。年平均降水量は、富士山による影響もあって3,000mm程度(推定)と県内では多い。年平均日照時間数は推定2,000時間以下と少ない。

災害事例 地震

- 1996年3月7日(平成8年)山梨県東部の地震 M=5.8
山梨県東部が震源で、河口湖で震度5を記録した。小山町では新富士変電所のトランスが発火した他、道路損壊1箇所の被害が出た。
- 1983年8月8日(昭和58年)神奈川県西部の地震 M=5.8
神奈川県西部(山梨県境)で発生した。三島で震度4。小山町内の東京電力(株)新富士変電所の被害により、富士川以東の全域で2~5時間停電し、断水、鉄道の停止、信号の減灯等県民生活に大きな影響を与えた。小山町内では負傷者1人、半壊1戸、文教施設4件、道路17件、橋梁2件などの被害がでた。
- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じ、伊豆北部に被害を与えたが、当地では荒廃林地1町歩程度の被害に止まった。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜などを潰滅させた大地震であり、当地でも死者(行方不明)が北郷村で23人(10)、小山町で149人(4)、足柄村で5人(2)におよびその他家屋の被害も全潰が北郷村で316戸(44.6%)、小山町で446戸(16.1%)、足柄村で237戸(9.2%)に達する大きな被害を受けた。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
県下全般に大きな被害を与えた大地震である。当地の震度も用沢で5~6、菅沼・大胡田・一色などで5程度で被害を生じている。
- 1782年8月23日(天明2年) M=7.0
小田原付近を中心に被害のあった局地的な強震であるが、当地では須賀沼村で家の倒壊10軒、竹の下で宿内の家17軒が潰れたと記録に残されている。

- 1498年9月20日(明応7年)明応地震 M=8.2~8.4
古い時代の大地震であるが、当地の湯舟郷で湯が湧出したと伝えられ、震度も5~6程度と推定されている。

災害事例 火山

- 1707年12月16日~31日(宝永4年)富士山宝永噴火
宝永地震後約50日頃から活動をはじめた富士山の噴火で宝永山が出現した、降灰量の多かったところは須走で3~3.6尺に達した。その他は桑木・竹下・新栄などの一部で1尺以下のところもあったが、ほとんどの地域で1~1.7尺に達している。